

働こう障害者も 働けるんだオレ達も

こぶしだより

2000年7月31日発行

発行責任者：藤田勝春
編集責任者：田澤幸子



佐藤イチさん・塚本展子さん・桧山竹土さん・加藤真博さん
土井小百合さん・佐藤福恵さん・信賀浩行さん

今月の紙面

- ①特集（1ページ）
*よろしくお願ひ
いたします
*第二けやき作業
所開所しました
②くらし（2ページ）
*GHの衛生につ
いて（ときわ荘）
*シリーズ生活施
設
- ③なかま（3〜4ページ）
*全国大会で得た
もの
*仲間の声
*仲間が自ら
④保護者・こよみ（5ページ）
*こぶし野沢さん
⑤考える（6ページ）
*こもればび
*どあ

退任のあいさつ

平成十二年春の叙勲褒章におきまして、藍綬褒章受章という思いもかけない光栄に浴しました。知的障害者に対する福祉功績が受章の理由でしたが、私としてはごく当然の仕事が続けてきただけと思っておりましたので、どうして私なのか戸惑いました。私などよりもっと長い年月地味ながら特に処遇の困難な障害者を多数進んで受け入れその処遇にたゆまない努力をなされ、立派な実績をあげられておられる先輩の施設長・職員の方々を多数知っていたからです。一方、私が創設に関わり現在まで障害者の働く場所として取り組みをつづけてきた「こぶし作業所」も無認可時代を含めて二十五年を経過し、多くの関係者の協力によって一定の成果が評価されるようになってきました。このようなことで、これらなかなか世に認められにくい多くのご努力及びご支援の結晶を代表して褒章を受けると考えました。

社会福祉に携わる人たちの多くは、自分が献身的にしている仕事や社会に対する貢献についてあまり語りたがらない傾向があります。社会一般と比べてかなり低い報酬や酷しい労働

働条件のなかで自己の使命感に燃え、取り組みの対象者が人間としての発達をとげるための援助者としての自分の役割を聖職者と同じように考え、あくまで謙虚につつましやかに自己評価をしているのでしょうか。私もこれまで障害者福祉の仕事をしているという、「立派なお仕事をされていますね」と褒められ自分でもついその気になり、世俗的な立身出世を考えずにひたすら自分の存在目的のため社会的弱者のため奉仕しているのだという自己満足に陥ることもないではありませんでした。しかし、考えてみますとこれは施設で生活する障害者を持った人たちの上に自分を置く事になりかねず、障害者の人間としての生存し類的存在として社会の文化を吸収し、発達していく権利を低く見てしまう恐れがあります。生活施設では、職員も利用者も同じ位置にあると認識することが大事だと思います。施設の利用者に対する処遇が独善的にならず、ごく当たり前の生活の場であるためには、施設従事者が自分の仕事をよくあたり前の仕事・ビジネスと考えた方が良いのではないのでしょうか。そしてその与えられた職務を要求される根本の精神に基づいて一生懸命遂行し、組織として施設はその貴重な実績と成果を最大限にPRすることが必要だと思われます。本年六月三十一日をもって、後進に道を譲る

べくこぶし作業所の所長を退くことになりました。

これまで、こぶし作業所に温かいご支援をお寄せ下さいました多くの後援会・ボランティアの皆さま保護者の方々、法人の役職員の皆様、本当にありがとうございます。今後とも、従前どおりよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

(住谷 佳裕)

第二けやき作業所

開所しました

平成一二年七月一日、廃校になった芳賀町立稲毛田小学校跡地を利用して、精神障害者小規模作業所「第二けやき作業所」が開所しました。

登録メンバーは、まだ三名ですが、病院を退院したら、「通いたい」「友達がほしい」といった理由から希望する方が少しずつ増えてきています。

主な作業内容は、カセット作業と調理実習です。精神障害者の方は、状態に波がある中で、休みがちになったり、頑張りすぎてコントロールできなくなったりと様々です。まだ日は浅いですが、スタッフがその方の障害の

特性を理解するにつれ、コミュニケーションもとれるようになりました。ある作業所のスタッフが「スタッフがやりすぎない方がメンバーはしつかりする。」と言っていました。第二のメンバーも私がスタッフ?のため、心なしか、しつかりしてきたように思います。試行錯誤の毎日ですが、メンバー達が目指しているのは、社会に出て働くこと、自立した生活を送ることです。一人でも社会復帰出来るよう支援していきたいと思います。

(けやき 堀江)

グループホームの

衛生について

ときわ荘編

「衛生面」と聞いてまず何を頭に浮かべますか?「清潔にする事」「掃除」などなど。では、なぜ衛生面に気をつけなくてはいけないのでしょうか。私にはこれだ!というものは良くわかりませんが、それでも私なりに思うこと、そして「ときわ荘」で気をつけている中身について書きます。

ときわ荘でというより私の主観ですが、ま

ず気をつけていることは「病気になるない程度」です。どこで線引きをするのかという難しさはもちろんあるのですが、虫がわかなければ最低限良いと思っっています。不衛生にしていれば病気になる確率は高くなりますし、精神的にも不快感(ストレス)をためてしまい、生きることにマイナスになります。そして、人間関係にも影響がでてくると思っっています。不潔な人に対し「嫌だな」と思うのは、自分の身を守る本能もあるのではないのでしょうか。一歩間違えると「差別」につながりますが、そうならないよう良い方向に導き出せるのも人間の魅力とも感じます。そこで、ときわ荘では、「なるべく風呂に入る。」「なるべく一度着たものは洗濯する。」「食べこぼした汚した所はなるべくすぐ掃除する。」「だいたいこの事を仲間と話し、実行するようにしています。実際には、風呂好きがほとんどで、風呂に入らなかつた人も着替えをし、洗濯をしています。私も部屋が汚れていたりすると「掃除」を口にするより「病気になるっちゃう」と言っっています。

しかし、どこまで「衛生面」を求めれば良いのか正直わかりません。昨今の抗菌ブームに人と人との信頼が薄くなつていくのを感じるのは私だけでしょうか。

(こぶし 金田)

シリーズ生活施設

その4

先日、社会就労センターの総合研究大会に参加してきた。その中のシンポジストで入所更生施設の施設長さんが発言されていたのが、現在入所施設で生活している七割の仲間が地域の中でくらせる力をもっているが、現実には施設での生活を余儀なくされているとのこと。それは安心してくらせるシステムや支援体制が地域には無いからだと云う。

また、昨年ある調査で仲間たちの本音を受けとめ支援していこうという意識調査が行われた。これは、保護者も含めての調査だったが、その中で「街で暮らしたい?」という設問に仲間は六〇%の人が街で暮らしたいと答えたのに対し、保護者は一五%だったという。

一方で厚生省の平成一五年以降入所施設は認可しないという発言・・・障害のある仲間たちが、将来にわたって当たり前になる仲間たちが、将来にわたって当たり前になる仲間たちが、暮らしていくためには、どんな中味をつくつていったらいいのだろうか。今改めて考え直す時期にきている。

(こぶし 成田)

全国大会で得たもの

六月十、十一日に和歌山県で開催された第二十三回共作連全国大会にけやき自治会役員会から三人の仲間が参加した（昨年、京都で行われた全国大会には仲間の参加者はなかったが、今年は昨年に比べ仲間も増え、全国大会の話を聞く、「参加したい!」と言う仲間が多数居たため、自治会代表として役員会から三人の仲間が選ばれた）。

栃木から和歌山までは遠かったが、全国の仲間との交流ができる場というのがほとんどないという状況の中で、共作連全国大会というのは、数少ない交流の場であったため、三人の仲間の参加というのは、今後のけやき自治会に大きな影響を与えてくれるものだと実感した。

三人はそれぞれ違った分科会に参加した。直井信也さんは自治会の交流会、小林秀子さんは作業・給料等について、諸橋優子さんは恋愛・結婚の分科会に参加し、三人とも全国各地の作業所の仲間と色々な意見を聞いたり、交換したりできたという。特に、恋愛・結婚については、誰もが一度は憧れ、悩むことであり、仲間同士の結婚や恋愛話

を直に聞いたことにより、違った視点から恋愛・結婚についての考えが持てるのではないだろうか。

また、他の作業所の作業や給料についての分科会に参加した小林さんの話によると、けやき作業所と比べ、給料が多かったり、様々な作業に取り組んでいる事例を聞いてきたようで、すぐにその事が今後の作業に反映されるとは言えないが、いい刺激となったことは間違いないと思った。

分科会のテーマごとの交流を深めてきただけでなく、休憩時間等を利用しては、参加した他の作業所の仲間たちから名刺をもらったり、個人的な話をしたりして、けやき以外の仲間が出来ることに大変喜んでいる仲間たちを見て、参加した意義が十分果たされたような気がした。

今後は、全国大会で得たものをけやき自治会で出していって欲しいと思う。

(けやき 田村)

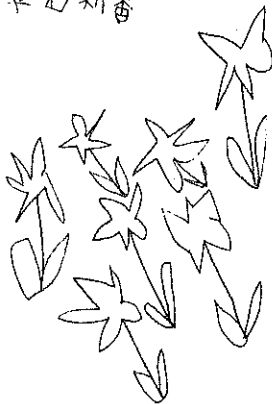
分科会に参加した小林さんの話によると、けやき作業所と比べ、給料が多かったり、様々な作業に取り組んでいる事例を聞いてきたようで、すぐにその事が今後の作業に反映されるとは言えないが、いい刺激となったことは間違いないと思った。

なかまの声



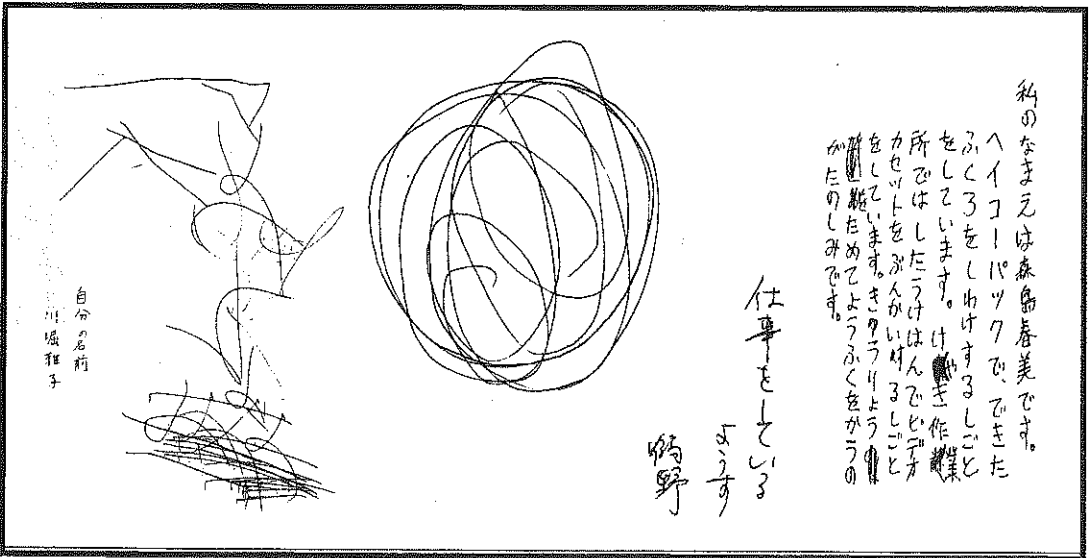
佐々木 晃

平石 利香



まま
まま
まま

あまのこ 依子



自分の名前
川崎雅子

私のなまえは森島春美です。
ハイコーパツクで、できた
ふくろをしりぬけるしごと
をしています。けいぞ作
所ではしたうけはんびん
かせットをぶんがいするしごと
をしています。きつりよう
かたのためようふくをがうの
かたのしめです。

仕事をしつて
よす
野

仲間が自ら・・・

最近のリサイクル班は少しずつではあり
ますが、「仲間自ら」という行動や言動が
見られる様になつていきます。

例えば散歩の後、汗をかき、着替えをし
に行く・・・。「汗をかいたら着替えをす
ることは当たり前」と言われるかもしれま
せんが、声を掛けなければできなかったこ
とです。一人でロッカーに向かい着替え始
めたり、シャツを指さし「着替えは？」と
いうかのように態度で示したり。まだまだ
声掛けなしですべてというわけにはいきま
せんが、毎日の取り組みの中で少しでも仲
間自身の自立に繋がればと考えています。

不本意ながら今仕事がなく、ベアリング
班の手伝いと缶つぶしをしています。その
中で一つの取り組みとしてふと一つの質問
を試してみました。「仕事無いけどやりたい
仕事ある？」

しばらく沈黙の後、「花を作りたい」「そ
れを売る」「野菜を作りたい」との意見が
出ました。言葉が少ない仲間も外を指さし
たり笑い始めたり・・・これは昨年園芸

活動として草むしりから始まりミニトマト・
ひまわりを育て、汗をかきながら世話をし、
トマトを食べたりしたことが、何らかの形
で少しでも仲間の心に残っているからこそ
と感じています。他の仕事を勧めても「い
やー」とのこと。その言葉を聞き、自分か
ら何かをしたい、言いたい、という意識が
はつきりと伝わってきました。

毎日の忙しさの中、仲間のペースで仲間
が自分から動くことの大切さを忘れがちに
なつていきます。でもあえてじっくりと、ゆっ
くりと、一人一人と向かい合いたいと思っ
ています。「仲間自ら・・・」そのことが
精神面での自立、仲間の力の原動力になる
大切な一歩と考えているからです。

これからもっといろいろな事を仲間と一
緒に考え実行していくことで自信と自立を
共有していけるようにしますので、今後の
リサイクル班に請うご期待。

(こぶし) 山室

今日より明日と・・・

昭和五十九年三月十二日、九年間の義務教育を終えて無事、益子養護学校を卒業して、体にハンディーをもちながらも一人の社会人としてスタートしたのが、田畑が広がり、自然にいつばい恵まれた環境にある「こぶし作業所」でした。

こぶし作業所の中で「一番若い仲間で、一番若いお母さんですね。」と住谷所長さんから言われた言葉が、ついこの間のような気がして年の流れの早さに驚いている今日この頃です。仲間の中で一番若かった浩之も十月がくると三十二歳になり、こぶしで一番若かった私も孫がいる年になってしまいました。思えば、様々なことが走馬燈の如く通り過ぎ、仲間・職員・社会からの援助や奉仕を頂いて今日に至っております。浩之を生み育てた三十一年間、雨も嵐もありました。そして、いろいろな人との出会い、別れ、またいつか巡り会える日を楽しみに今日より明日と、ただひたすら微力ながら毎日頑張ってきました。また、私の唯一の心配でもあり、悩みであった浩之の左足のまきづめも自治医大の先生の心あたた

まるアドバイス、様々な配慮のおかげで無事手術することができ、術後の通院、抜糸と全て終え、今、親として大げさな言い方かもしれませんが、一つ責任が果たせたかなとその喜びを実感しているところです。今まで、足の痛みのため思うように散歩ができず、太ってしまい、現在は土日の休みを利用して筑波山を眺めながら、こぶしの話をしたり、大きな声で歌を歌ったりして散歩をしています。これからも、まだまだこぶしに行つて仲間と一緒に旅行したり、キャンプに行つたり、ゆうあいピックにも参加したいし、こぶしまつりにはステージに上がつて歌も歌いたいし、したいこと見たいこと、体が自由にならなくてもチャレンジしたいことがたくさんあると思います。私も親として少しでも子供に手をさしのべることができたら・・・とそんな思いで最近少し老化が見え始めた息子を送迎車に乗せ、「今日も元気で一日過ごすことができますように、仲間と仲良く作業を頑張つてくれますように・・・」と祈りながら私と浩之の一日が始まります。

こぶし・けやきの保護者の皆様、体に十分気を付けて頑張りましょうね

(こぶし) 野沢



こよみ

- 5日(土) 職員会議(こ)
- 11日(金) ケース検討会議(け)
- 12日(土) 日産工場見学(け)
- 16日(水) 指導会議(こ)
- 19日(土) 夏期休暇
- 19日(土) 職員会議(け)
- 19日(土) 職員会議(け)
- 19日(土) 職員会議(け)
- 21日(土) 職員会議(け)
- 21日(土) 職員会議(け)
- 21日(土) 職員会議(け)
- 23日(日) 絵画展(みらいの会)
- 23日(日) 芳賀郡療育訓練
- 27日(日) 日曜作業所

こもれび

「社会福祉法人の理念を再検討する」法人の事業計画に明記されている。理念とは、法人全体の目指すことであり、究極の目標でもある。まともな企業には、この理念（社是）が掲げられ、労働目的として日々追求されるどころだ。

しかし、理念も長い情勢の変化によって具体的な理念実現の方法やあり方は当然変わってくる。今回の事業計画でも合わせて長期計画の見直しも記されているところである。

さて、こうした理念や長期計画が四半世紀の風雨にさらされ、さらに、鍛えられたものになるために、そのキーワードを私見ではあるが述べてみたい。

その第一に、挙げねばならないのが「障害のある人たちの願いを（かけ値なしに）実現する事業体であることを明確にすることであると思う。分り切った事であろうが、あえて強調したい。様々な矛盾の吹き溜まりの障害者問題である。

つい、職員の労働条件や、家族（保護者）の課題にかえてしまったり・・・ましてや経営や組織優先で何をか況わんやである。しかし、『障害者の人生は、障害者のもの』である。彼らの人生をこの競争が激化した世

の中で、輝くものにしていくには、相応の覚悟が必要だ。社会的使命を受け、その事業に責任を持つ、法人が真つ先にその決意表明をすべきだと考える。そのうえで民主的な話し合いや、地域の理解等々大切な言葉が初めて意味を持つてくると思う。

さて簡単に、障害者が主人公の事業展開といつてもまた、その具体的中身が気になるところであるが、自分自身はノーマライゼーション、同じ年齢に相応しい生活を基本に考えることにしている。仕事の内容、給料、趣味、人間関係、生活の仕方等々悩みや苦勞も含めて、障害者に保障していきたいと思っている。

（けやき 高橋）

どあ

先月は、紙面の都合で中途半端に終わってしまいましたが、利用するサービスの決定が措置制度から利用制度へと変化し、利用者本位の考え方が生かされるための前提条件を考えてみました。今回もその続きです。

利用者が自分の希望するサービスを選ぶためには、サービスがよく利用者に知られていることも必要になります。それも、どういうサービスがあるかというだけでなく、その

サービス実施状況の評価も含めて、必要な情報を手でできるようにしていくことが求められます。

さらに、利用者からの苦情解決のしくみも必要になります。生命保険契約書の裏面に被保険者を守る条項がびつしり書かれています。が、この「契約」でも事故の発生を想定し、また予防するためのしくみが求められるわけです。

そのため、今回の法案可決には、異例ともいべき多くの付帯決議がつけられています。法律改正は良いけれども、そのためには、条件がありますよ、ということですよ。その中でも公費助成については現行水準を維持し、利用者負担については現行水準を上回らないことと述べられています。

さて、こうした改正に対しての私達の立場は、どのようなものでしょうか。法律改正の理念を實質化させるための、外に向かつての批判や提言も含めた取り組みを進めることは当然ですが、同時に自らの内に向かつて、しかも社会福祉法人こぶしの会二〇周年を迎えて、もう一度「こぶしらしい」利用者主体の実践のありかたを見直すときではないでしょうか。

（こぶし 田澤）

掲示板

〔けやきまつり
第二けやき作業所開所式〕
を

平成十二年九月十日に開催し
ます。

里親募集

生後3ヶ月位。真っ黒なメスの
子犬の里親を募集しています。
名前は「クー」です。かわいがつ
てくれる方、こぶしままでご連絡
下さい。

後援会よりお知らせ

毎年恒例こぶしバザー

十月十日・二荒山前にて(予定)

古着・品物等不要になった物
をご提供下さい。ご連絡はこぶ
し作業所まで。

ここにこパン屋さん
地粉の食パン・ブルーベリーパン
その他新製品ができました。注文販売も
ありますので宜しくお願いします。

共作連賛助会員・こぶし
けやき後援会会員拡大に
御協力下さい!

粉石けん
1.2kg箱入
¥270
1.2kg袋入
¥240
固形石けん
2個入
¥100
ご注文いつ
でもo.k!

好評発売中!
ふふふ石けん

お気軽に
お問い合わせ
下さい。

社会福祉法人 こぶしの会 法人事務局 こぶし作業所	☎ 321-0902 栃木県宇都宮市 柳田町 1401 TEL 028(662)1911 FAX 028(662)1912	けやき作業所 デイ・サービス センター 共作連とちぎ 事務局	☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町 祖母井 2244 TEL 028(687)1040 FAX 028(677)5789
------------------------------------	---	--	---